

施工要領書

コンパクトタイプ

ダイキ小規模合併処理浄化槽

MCP-5・7・10型

株式会社ダイキ アクセス

本社/〒791-8022 愛媛県松山市美沢一丁目9番1号
tel(089)927-2222(代) fax(089)927-3335

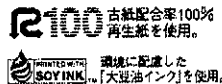
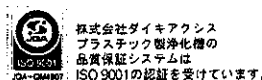
環境機器営業グループ 代表/ tel(089)927-2246

東北支店 tel(022)256-6577	山口営業所 tel(0835)23-4887	鳥取出張所 tel(0773)75-0645
東京支店 tel(03)3661-3331	高知営業所 tel(088)866-0604	和歌山出張所 tel(0736)33-4050
大阪支店 tel(06)6535-1144	熊本営業所 tel(096)370-3331	島根出張所 tel(0852)31-2366
広島支店 tel(082)870-5511	博多出張所 tel(0172)53-8856	徳島出張所 tel(088)626-1066
高松支店 tel(087)882-6322	秋田出張所 tel(018)867-0231	南予出張所 tel(0896)24-5511
福岡支店 tel(092)413-1281	福岡出張所 tel(024)546-0300	大分出張所 tel(0977)24-4119
埼玉営業所 tel(0480)59-3461	盛岡出張所 tel(019)643-2103	特 高 部 tel(089)927-2246
千葉営業所 tel(043)287-2111	神奈川出張所 tel(046)223-2424	開発営業部 tel(089)927-1126
長野営業所 tel(0267)64-8111	北陸出張所 tel(076)292-2177	施設管理一課 tel(089)927-1798
名古屋営業所 tel(052)772-0217	岐阜出張所 tel(0584)88-2690	東京施設管理部 tel(03)3661-3323
西宮営業所 tel(0798)47-1001	静岡出張所 tel(054)281-7321	大阪施設管理部 tel(0798)47-1001
岡山営業所 tel(086)246-5801	三重出張所 tel(0593)33-1285	

住宅機器営業グループ 代表/ tel(089)927-3333

広島支店 tel(082)870-0888	岡山営業所 tel(086)242-3232	四万十出張所 tel(0880)37-6258
高松支店 tel(087)882-5330	徳島営業所 tel(088)626-1128	南予事務所 tel(0896)24-5511
高知支店 tel(088)866-1416	東予営業所 tel(0897)56-3598	配送センター tel(089)927-1111
西宮営業所 tel(0798)47-1001	今治営業所 tel(0898)31-2720	

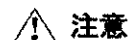
お客様窓口 〒791-8022 愛媛県松山市美沢一丁目9番1号 ☎0120-171893 fax(089)927-1973



■改良のため予告なく製品の仕様や色などを変更する場合があります。ご了承ください。

安全に関するご注意 本製品の設置工事や使用方法、維持管理については、付属の要領書、説明書に詳しく記載されています。これらをよくお読みの上、正しく設置や使用、管理を行ってください。

K0028/S3000 2006年1月作成



注意

・施工要領書に出てくる警告および注意表示の部分は、浄化槽を施工する前に特に注意深く読み、よく理解してください。



目 次

1. はじめに	2
2. MCP型の構造と機能	2
3. 警告および注意事項	3
4. 留意事項	4
5. 施工開始前にお確かめください	5
6. 施工の段取り	6
7. 施工の手順と注意事項	7
8. 特殊施工	14
9. 確認と試運転	15
10. 完了検査と引き渡し	22
11. 槽の外形寸法と仕様	23

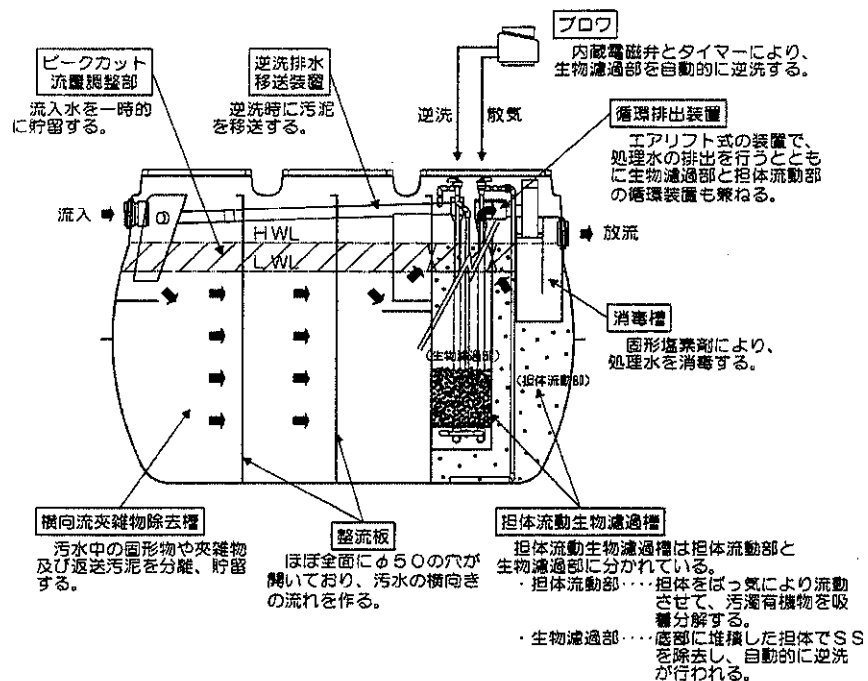
1. はじめに

このたびはダイキ小規模合併処理浄化槽MCP型をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
 この「施工要領書」をよくお読みになり、正しい施工を行ってください。

2. MCP型の構造と機能



ダイキ小規模合併処理浄化槽MCP型の構造と機能は以下の通りです。
 MCP型の特性を十分ご理解の上、工事にあたってください。





MCP型 5・7・10人槽



3. 警告および注意事項

本書で使われている表示マークには、次のような意味があります。表示と内容を必ずお読みになり、よく確認してください。

-  **警告**：この表示を無視して、誤った作業を行うと、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
-  **注意**：この表示を無視して、誤った作業を行うと、使用者が傷害を負う危険および物的損害*の発生が想定される内容を示します。
 ※ 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

-  **警告 1) マンホールからの転落・傷害事故防止**
 - 工事中は、必要なとき以外はマンホールのフタを必ず閉めてください。
 - フタやマンホール枠のひび割れ・破損などを発見したら、ただちに交換してください。
 - フタをコンクリート面や地面等に置く時は、落下させずに丁寧に置いてください。
 - ロックの変形、破損、脱落等が生じた場合、ただちに交換してください。
 - 安全荷重 250 kg のフタは車両等が載るところでは、使用しないでください。**これらの注意を怠ると、転落・傷害が生じる恐れがあります。**
-  **警告 2) 槽本体の落下事故防止**
 - 槽の吊り上げ・据え付け作業は、本体への玉掛けを確実にを行い、絶対に槽の下には立ち入らないように、安全を十分に確認して作業してください。**これらの注意を怠ると、傷害事故が生じる恐れがあります。**
-  **警告 3) 感電・発火事故防止**
 - アースが必要なプロフ・制御盤などには、必ずアース工事をしてください。
 - プロフの電源は、防水型接地端子付コンセントをご使用ください。**これらの注意を怠ると、感電・発火が生じる恐れがあります。**
-  **注意 1) 転落事故防止**
 - 埋設工事に際して、穴を掘った周囲には、防護柵を作り、関係者以外立ち入らないようにしてください。また、据え付け後の水張り、浮上防止金具の取り付けなどの作業時に槽本体に直接乗らないでください。外槽表面はとてもしずりやすく、落下する危険がありますので、足場板などを使用した上、十分注意して作業してください。**これらの注意を怠ると、転落事故が生じる恐れがあります。**

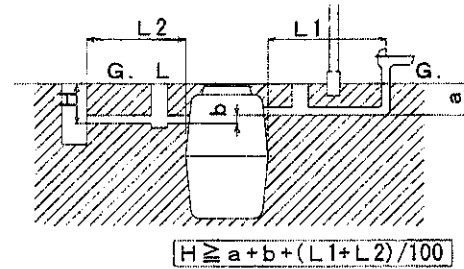
4. 留意事項

浄化槽設置工事は、各都道府県に登録されている専門の(浄化槽設備士の資格を持つ)工事業者が行ってください。

- 浄化槽の設置届けが完了しているかを確認してください。
- 施工要領書、浄化槽工事の技術上の基準などの諸法令を確実に守って工事してください。特に基礎工事、埋め戻し工事、上部スラブ打設などは、施工要領書に基づき正しく行ってください。工事が不完全な場合は、槽破損による汚水漏れや放流水質の悪化などの不具合の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格を持つ、専門業者をお願いしてください。
- ブロウを設置する場所は通気性(防湿)、騒音、降雨、積雪、浸水等配慮して決めてください。基礎は振動防止のためにコンクリート製とし、建築物の基礎および犬走から離れた(20cm)位置で、上面は地盤(G. L)より10cm以上で、幅と長さはブロウ本体の外寸よりそれぞれ5cm以上大きくしてください。
- 下記に示す場合には特殊工事になりますので、槽本体に影響を及ぼさないよう、補強工事を行ってください。
 - ① MCP-5,7型において、浄化槽本体の設置場所上部を総重量2tを超える車の駐車場にする場合
 - ② MCP-10型において、浄化槽本体の設置場所上部を駐車場にする場合
 - ③ 交通量の多い道路端に設置する場合
 - ④ 近くの建築物荷重が槽本体に影響する場合
 - ⑤ 軟弱地盤に施工場合
 - ⑥ 多雪地帯に設置する場合
- 埋め戻しは、浄化槽を破損しないようつぎのような事項に注意して作業してください。
 - ① 水張りの後に、埋め戻し作業を行ってください。
 - ② 埋め戻しの土は、石ころなどが混入しない砂質土を用いてください。
 - ③ 埋め戻し時に重機のバケットなどを槽に当てたり、高いところから埋め戻しの土を落とさないでください。
- 設置作業完了後、正しく施工できたかを工事竣工チェックリストなどで確認(竣工検査)をしてください。
- 引き渡しのとき浄化槽の正しい使用方法を使用者(施主)に説明した上、チェックリスト(p22を参照してください)、取扱説明書、維持管理要領書をお渡しください。
- 使用者に浄化槽の保守点検業者と維持管理契約をするよう指導してください。
- 本書および浄化槽の設置工事全般に関して不詳な点があれば、弊社の支店・営業所か、お客様窓口にお問い合わせください。
- 冠水する場所及び雨水の逆流により槽内の水位が上昇する場所への設置は避けてください。

5. 施工開始前にお確かめください

- ① 施工資格が必要です
浄化槽の施工を行うには、法令上の資格制限を受けます。つまり、浄化槽工事を行う場合は当該現場に浄化槽設備士を置かなければなりません。
 - ② 設置届はお済みでしょうか
施工の前に必ず設置届を所轄の自治体へ提出し、許可を受けてから工事に着手してください。
 - ③ 設置場所は適当ですか
 - 1) 浄化槽はトイレと放流先を最短距離で結ぶよう、位置を決定してください。
 - 2) 次のような場所への設置は避けてください。
 - 壁内、床下、物置の下などの維持管理できないところ
 - 大雨などで浸水(冠水)しやすいところ
 - 建築物基礎の下など、建物の荷重が直接かかるところ
 - 運転音の気になる寝室や応接間、勉強部屋などの近く
 - 3) ブロウは水気・湿気・塵埃の多い所、風通しの悪い所、また、運転音の気になる寝室や応接間、勉強部屋などの近くへの設置も避けてください。
- ※やむを得ず浸水(冠水)するところに設置する場合には、放流ポンプ槽(一体型、別置型)を設け、排気管工事を行ってください。
- ④ 放流に必要な勾配が取れますか
トイレ・風呂および台所などの出口配管と放流場所との落差を測り、放流に必要な1/100以上の勾配を取ってください。



- a : 風呂、台所、便器等、出口配管の深さ(cm)
- b : 浄化槽自体の落差(cm)
- L1 : 風呂、台所、便器等から浄化槽までの配管距離(cm)
- L2 : 浄化槽から放流場所までの配管距離(cm)
- H : 設置に必要な最小落差(cm)

適切なこう配のとり方

※放流先の水位変動も考慮してください。場合により、放流ポンプ槽の設置が必要です。

6. 施工の段取り

① 現場調査における確認事項

施工の準備としては、まず現場調査を行い、工事を行うための次の条件を確認してください。

- 1) 設置場所の広さ …………… 設置図面通りの広さがあるか。
- 2) 配管路の状況 …………… 浄化槽の配管経路に障害物はないか。
- 3) 搬入、搬出路の状況 …………… 浄化槽の持ち込みができるか。
残土処分の搬出路、槽本体の搬入路はあるか。
- 4) 設置場所周囲の状況 …………… 資材置場、トラック、残土の一時置場があるか。
- 5) 土質の良否及び湧水の有無 …… 土質の状況はどうか。
湧水はあるか。
矢板など必要か。
- 6) 工事電力、工事用水の状況 …… 現場で電気、工事用水が調達できるか。

② 施工に必要な作業道具器材の点検

浄化槽の施工には、下表の道具類や材料が必要です。

道具類	穴 掘	スコップ、ツルハシ、パワーショベル 等
	基礎 固め	つき固め用の木槌または角材
	水平をとる	水準器、水系、渡材
	そ の 他	左官ゴテ、バケツ、ホース、スパナ、スケール、 モンキレンチ、ポンプ、滑車、パール 等
材 料	骨 材	セメント、砂、砂利、栗石
	配 管 材 料	塩化ビニール管、エルボ、チーズ管、接着剤
	そ の 他	会所升

③ 浄化槽および付属部品の確認

- 1) 表示の有無および、その表示内容を確認してください。
- 2) 納品書の明細などで付属部品が揃っているかを確認してください。その際に槽の内部や付属部品に土やゴミがつかないように注意してください。
※特に担体の取り扱いには、十分に注意してください。

④ 浄化槽工事業者登録票の準備

浄化槽法第 30 条により、現場ごとに標識を掲げなければなりません。

7. 施工の手順と注意事項

① 水盛りやりかた

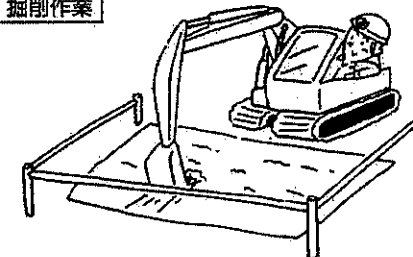
- 1) 敷地整理の後、浄化槽の設置位置を決定するために地縄張りをしてください。
- 2) 配管図に基づき予定位置に縄(または白線、石灰)を張り、建築主と工事関係者立会いのもとに敷地、建物、敷地境界との関係を確認してください。
- 3) レベル、位置、方向、芯を表示するためにやりかたを設けてください。
 1. 掘削予定部分から少し離して要所、要所に水ぐい(地ぐい)を打つ。
 2. 水抜きの上端をカンナがけしておいて水ぐいに高さの基準をしるし、水抜きの上端をこれに合わせて水平に取り付ける。
 3. 工事に支障のないところに逃げ芯を設け、その養生をしておく。

② 掘削作業


槽本体を埋設するための掘削は、施工図を参照の上、行ってください。槽を据え付ける時は、作業者が穴の中に入って作業をしなければならないので、余裕のある掘り方(30cm以上の余掘り)と、安全な法面勾配をとってください。

- 1) 有資格者(浄化槽設備士)による指揮のもとで作業を開始してください。
- 2) 掘削作業は建物、浄化槽に悪影響がないように建物などから十分な距離を取って行ってください。また、掘削場所の水道管やガス管、電線管など、地下埋設物の有無を事前に確認して、破損や事故がないように十分注意して工事を進めてください。
- 3) 設置場所の周囲、掘削深さ、地質や地下水の状況に応じて、山留や水替工事も検討してください。
- 4) 掘削場所の周囲は危険防止のため、安全柵や仮囲いを設けて、安全標識を見やすい位置に表示してください。
- 5) 掘削しすぎた場合は、掘削土で高さを調節すると地耐力が低下する可能性があるため、捨コンクリートまたは基礎コンクリートで高さを調整してください。

掘削作業



※MCP-5,7型自然放流タイプにおいて、上部を総重量2t以下の駐車場に設置する場合には、支柱工事が不要になります。

 注意：

- ・積雪量1m以下の場所に設置してください。
- ・長期許容地耐力30kPa以上で車両等の重量に耐える地盤に設置してください。
- ・最高地下水位が地盤面下0.5mまでとし、雨水等で水が溜まる場所、水みちになる場所には設置を避けてください。

また、下記の条件に該当する場合には、特殊工事が必要になります。(p14を参照してください)

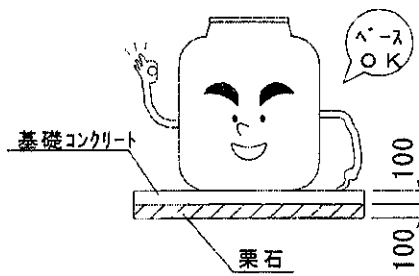
- ・上部を総重量2tを超える車の駐車場に設置する場合
- ・放流ポンプ槽一体型及び別置型を設置する場合 など

③ 基礎工事

MCP-5,7型：上部を総重量2t以下の駐車場に設置する場合（自然放流タイプのみ）
上部が駐車場以外で無荷重の場合

MCP-10型：上部が駐車場以外で無荷重の場合

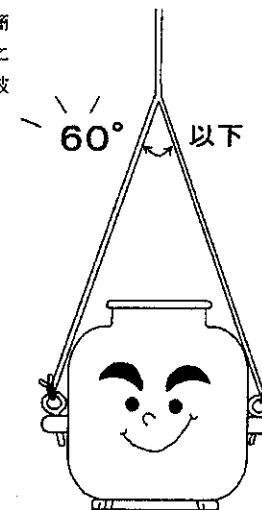
- 1) 掘削終了後、栗石と目潰砂利による地業工事を行います。100mm厚の鉄筋コンクリートで長短辺共に、D10・ピッチ200mmのシングル配筋とします。
- 2) 基礎コンクリートは強度18N/mm²以上のJIS規格品を100mm程度の厚さで、水平に打設してください。
- 3) 必ず水準器で水平を確認してください。目視のみによる打設はしないでください。
- 4) 基礎コンクリートを省略して砂だけを敷いた基礎をつくと長い間に砂が洗われて、栗石や地中の石が直接槽の底部に接し、槽本体の破損に繋がります。
- 5) 支柱工事が必要な場合は、基礎コンクリートの厚み、配筋等が違ってくるので、施工図または工事仕様書などに従ってください。詳しくは、弊社まで連絡ください。



④ 据え付け工事

本浄化槽は工場生産品ですから、現場での据え付け作業が非常に簡単で、短時間で工事を完了することができます。本体外槽は面圧に対して十分な強度がありますが、強い衝撃を与えると内部部品が破損する恐れがありますので、静かに降ろしてください。

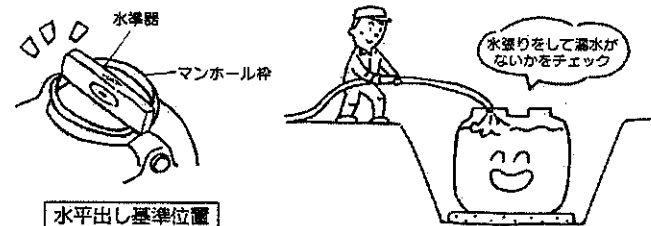
- 1) 浄化槽の接合部(フランジ)に吊り具を4ヶ所取り付けられていますので、2本のロープを使って必ず4点吊りをしてください。吊り上げ角度はのように60°以下になるようにロープの長さを調整してください。
- 2) 槽本体の開口部間や流入管と流出管部にロープを掛けて吊り上げたり、2点吊りしたりすると、槽本体の破損の原因になります。
- 3) 流入(入)、流出(出)の方向や設置レベルを確認します。
- 4) 設置後、槽の安定をチェックして、開口部の上端で水準器を使用して水平を確認してください。
- 5) 水張りをしながら、再度水平を確認して、漏水がないか槽の周囲を確かめてください。なお、水張りをする際は下記の手順で行ってください。



- ① 横向流夾雑物除去槽から水張りを行い、仕切板の移行口から担体流動生物濾過槽の担体流動部及び生物濾過部に移行させ、水準目安線(M.W.L.)付近で流入を停止します。※M.W.L.以上の水張りは避けてください。使用開始時、槽内が満水になりマンホール開口部から水の流出や、流動担体が蓋の上に載ってしまい、十分な処理性能を発揮出来ない恐れがありますので注意してください。

- ② 消毒槽の水張りを行います。

※放流ポンプ槽一体型の場合、直接放流ポンプ槽への水張りはしないでください。



- 6) マンホールを閉めてマンホールの水平がとれているかどうか、がたつき等ないかどうか確認してください。

※工場出荷時に確認は行っていますが、設置、仕上げ状況に関係する場合があります。

⑤ 埋め戻し

- 1) 浄化槽の埋め戻し前に必ず槽内の水準目安線(M. W. L.)まで水を満水にしてください。水張りをしないで埋め戻しをすると、槽の移動や傾きが起こります。また、埋め戻しの土圧により、槽本体や仕切板などに変形が発生する恐れがありますので注意してください。
- 2) 埋め戻しの際にマンホールの開口には必ずフタをして、土砂が槽内に入らないようにしてください。
- 3) 埋め戻しの土は石などが混ざっていない土砂を用いて、周囲を20~30cmづつ均等に埋め戻しをします。砂質上の場合には水締めおよびつき固めの作業をしますが、粘土質の場合には水締めを避けて転圧のみとします。
- 4) 埋め戻しに当たっては、槽の水平を確認しながら行ってください。片埋めは槽の傾きによる水平不良や局部荷重の原因となり、破損が発生する恐れがあります。



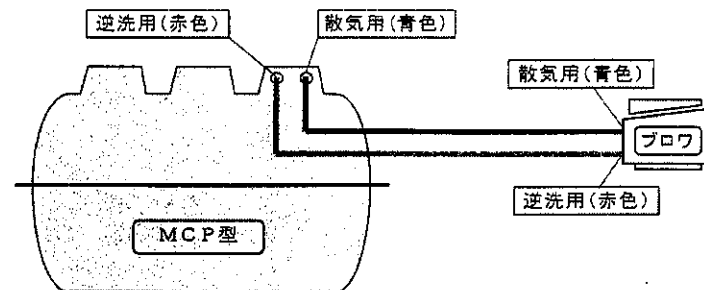
⑥ 流入管、放流管工事

- 1) 槽外配管工事は必ず埋め戻しの後、槽が安定した状態でそれぞれの管を接続してください(排気管工事も同様)。埋め戻し前に1m程度の逃げ配管をすると、土砂の重みによって逆こう配や槽本体の変形に繋がります。
- 2) 槽本体が変形するような荷重を与えないように、配管をソケットに接続してください(必ず塩ビ用接着剤を塗布して、確実に接着してください)。配管口径と配管こう配は右表を標準とします。
- 3) 流入管路の升はインバート升とし、雨水が入らないように密閉できるフタにしてください。また、臭気の逆流を防止するため、屋内の排水管にトラップ升がついていない場合は、トラップ付きのインバート升を設置してください。
- 4) 配管の土かぶり通常20cm以上ですが、凍結や特殊な条件がある場合は各都道府県の指導に従ってください。
- 5) 浄化槽への配管と雨水配管とは必ず別配管とし、雨水が浄化槽に入らないようにしてください。なお、浄化槽の放流側の升に雨水配管を接続する場合は、雨水が浄化槽に逆流しないように、十分な落差をとってください。

管径	こう配
φ100	1/100

⑦ 送気管工事

ブロウの吐出口には散気用と逆洗用があります。浄化槽本体にも、散気用と逆洗用の送気口がありますので、よく確認して、絶対に誤接続しないでください。送気管を正しく接続しないと所定の処理性能が発揮できません。

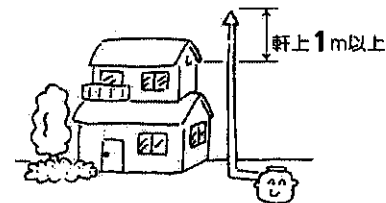


- 1) ブロウ吐出口には散気用(青)と逆洗用(赤)があります。
- 2) 拒体流動生物濾過槽の開口部に散気用(青)と逆洗用(赤)の接続口があります。ブロウの散気側と開口部の散気用を、同様にブロウの逆洗側と開口部の逆洗用をそれぞれ接続します。
- 3) 浄化槽とブロウの距離は10m以内とし、できる限り直線配管としてください。
- 4) その他の注意事項等については、⑩ブロウの据え付け工事(p13)を参照してください。

⑧ 排気管工事

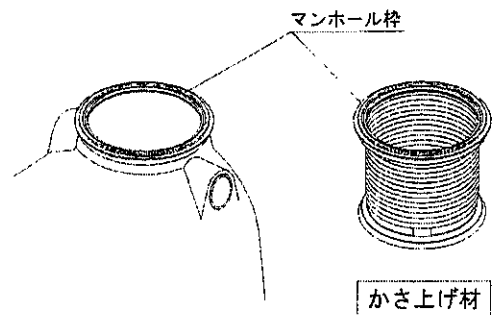
浄化槽には臭気が付きものですので、排気管は必ず設けてください。浄化槽の運転状態、設置場所などにより臭気が問題になる場合がありますので、ご注意ください。

- 1) 排気管は、所定の場所まで横引管で延ばし、エルボなどを使って近隣の関係を配慮し、できるだけ通風の良い所を選んで立ち上げてください。
- 2) 立ち上がり高さは近隣の住居を考慮に入れ、苦情が生じないように最低3m以上で、横引き長さの2倍以上とし、あるいは管径を太くしたりして、軒上1mまで上げてください(横引管はなるべく短い方が良いことになります)。
- 3) 風などで倒れないようにサポートをつけてください。
- 4) 配引管のこう配は、必ず浄化槽に向かって下りこう配にしてください。配管が逆こう配になっていると、結露水が管内に溜まり、排気ができなくなります。



⑨ かさ上げ工事

- マンホール枠は浄化槽本体開口部にビスで固定しています。かさ上げが必要な場合は、マンホール枠を外し（ビスを抜く）、塩ビ製のかさ上げ材を開口部に被せてください。外したマンホール枠はかさ上げの高さを調整した後、かさ上げ材に被せてください。
- 鋳鉄製のマンホールを使用する場合は、樹脂製のマンホールと同様の作業を行ない、さらに樹脂製のマンホール枠の上に鋳鉄のマンホール枠を載せます。



※かさ上げは300Hまでとしてください。

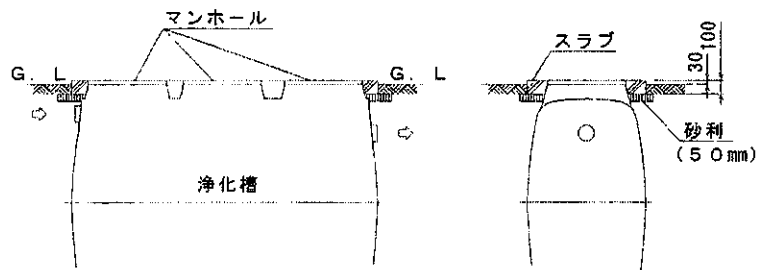
⑩ 上部スラブコンクリート工事

MCP-5,7型：上部を総重量2t以下の駐車場に設置する場合（自然放流タイプのみ）

上部が駐車場以外で無荷重の場合

MCP-10型：上部が駐車場以外で無荷重の場合

- 施工図に従い、配筋を行います。マンホール開口部には補強筋を施しコンクリートを打設します。
- コンクリートを打設後、まだ固まらない間に表面を金ゴテで仕上げてください。
上部スラブは100mm厚の鉄筋コンクリートで長短辺共に、D10・ピッチ200mmのシングル配筋とします。

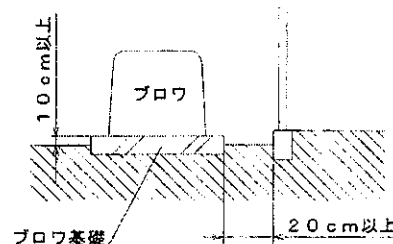


- 支柱工事が必要な場合は、上部スラブの厚み、配筋等が違ってきますので、施工図または工事仕様書などに従ってください。詳しくは、弊社まで連絡ください。

⑪ プロウの据え付け工事

- プロウの据え付けは、下記の条件を満たした場所を選んでください。
 - ・風雨や直射日光が当たらない、通風の良い場所。
 - ・水はけが良く、湿度の少ない場所。（浸水しない場所）
 - ・寝室や応接室、勉強部屋などから離れていて、音が反響しない場所（運転音や振動の問題が発生しにくい場所）。
 - ・保守点検が容易にできて、ほこりの少ない場所。
 - ・積雪地域の場合は、プロウが雪の中に埋没する恐れのない場所。

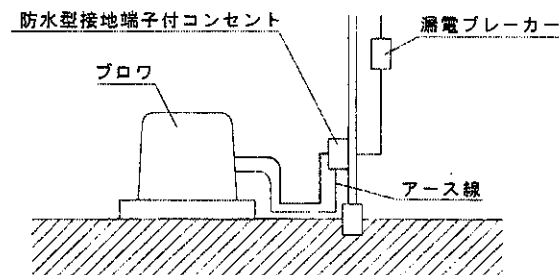
- 浄化槽とプロウの距離は10m以下とし、できる限り直線配管としてください。
- プロウの基礎の上面はG.L.から10cm以上とし、水平にコンクリートを打設してください。また、プロウの基礎と建物の基礎および犬走との一体化は振動が伝播し、クレームの原因となりますので、20cm以上離れた位置にしてください。



- 送気配管の埋設深さは10cm以上とし、上部スラブコンクリート以外で送気配管の上を車が通る場合は、厚み15cm以上の鉄筋コンクリートで保護してください。
- 浄化槽と送気管が正しく接続されているか、再度確認してください（⑦参照）。

⑫ 電気配線工事

- 電気工事は資格を持った専門の業者に委託してください。
- コンセントは防水型接地端子付コンセントを使用します。
- 接地工事が必要なプロウについては、プロウ付属のアース線を利用して、必ず実施してください。
- 通電して異常の有無を確認してください。



電気工事

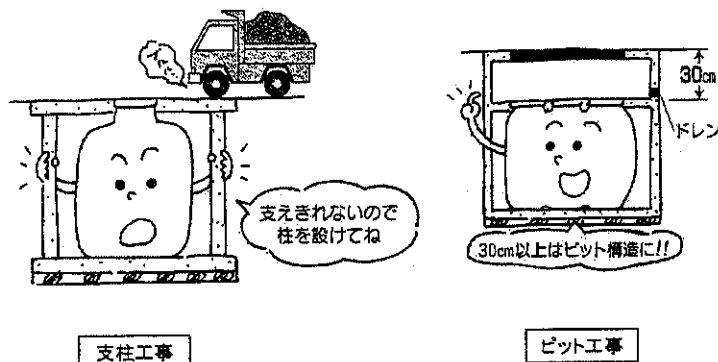
8. 特殊施工

下記に示す場合には支柱工事、その他条件にあわせた特殊工事が必要です。

- ①MCP-5,7型において、上部を総重量2tを超える車の駐車場にする場合
- ②MCP-10型において、上部を駐車場にする場合
- ③MCP-5,7,10型において、放流ポンプ槽一体型及び別置型を設置して、上部を駐車場にする場合
- ④かさ上げ寸法30cm以上の場合や、特殊な条件にて設置する場合

①～③の場合は、下図のようにベースとスラブの鉄筋コンクリートの間に支柱を設けて、上部荷重が直接浄化槽に掛からない構造とします。

④かさ上げ寸法30cm以上の場合、下図のようなピット構造とし、点検が容易にできるように浄化槽の上部に点検スペースを設けます。



施工については、施工図または工事仕様書などに従ってください。詳しくは、弊社まで連絡ください。

9. 確認と試運転

- 1) 流入管、流出管のレベルが逆こう配になっていないかなどのチェックをした後、実際に水を流して配管および弁が正しく施工されているか確認します。
- 2) 図面と照らし合わせて、槽内部品の脱落や有無を確認してください。特に担体が、担体流動部及び生物濾過部に充填されているか確認してください。
- 3) 各槽内の水位が正常値かの確認と同時に、水平に設置されているかを、水準目安線でチェックしてください。
- 4) 横向流雑物除去槽から担体流動生物濾過槽への移行口、担体流動生物濾過槽から生物濾過部への移行部及び循環排出装置の循環水吐出口に異物が詰まっていないか確認してください。

①担体流動生物濾過槽

項目	結果	備考
ばっ気の確認		ブロワを作動し、ばっ気が偏りなく行われているか確認してください。
散気時における担体の流動状態の確認		ブロワを作動し、担体流動生物濾過槽の汚水を担体ごと1L程度すくい、たまっている担体の容積を測定してください。担体の容積がすくった汚水量に対し25～35%あれば適正です(p17を参照してください)。
循環排出装置の調整		ブロワを作動し、循環排出装置を調整してください(p16を参照してください)。
逆洗時における担体の流動状態の確認		ブロワを作動後、逆洗スイッチを押し、生物濾過部がばっ気され、担体が十分に流動しているか確認してください。水張り直後は担体が浮上する場合がありますが、汚水が流入すると徐々に馴染んでいきます。
逆洗排水移送量の調整		ブロワを作動後、逆洗スイッチを押し、逆洗排水移送装置を調整してください(p17を参照してください)。

②消毒槽

項目	結果	備考
薬剤の投入		使用開始時期が近ければ、薬剤を袋から出して、薬剤筒に入れてください。

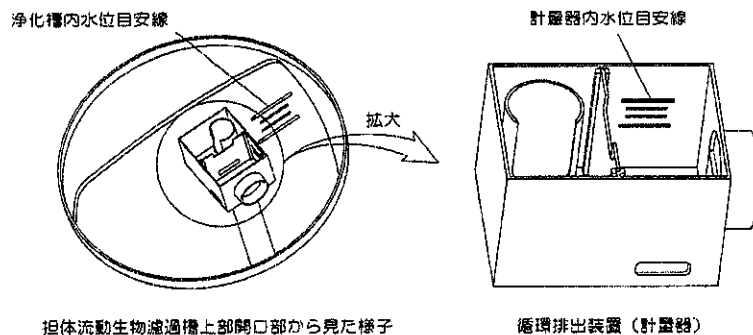
③逆洗の設定

項目	結果	備考
逆洗時刻の確認 (出荷時の設定時刻：3、15時)		3:00、15:00(1日2回)で設定されているか確認してください(p18を参照してください)。
逆洗時間の確認 (出荷時の設定時間：20分間)		1回当たり20分に設定されているか確認してください(p18を参照してください)。
自動逆洗、手動逆洗の確認		自動逆洗、手動逆洗が適正に行われるか確認してください(p18を参照してください)。

(1) 循環排出装置の調整方法

循環排出装置は下記の要領で調整します。

- ① 浄化槽内の水位を水位目安線で確認します。
- ② ①で確認した水位が一番下のライン（LWL）付近であれば循環排出装置の計量器内水位も一番下のライン付近に水面がくるように、また一番上のライン（HWL）付近であれば計量器内水位も一番上のライン付近に水面がくるように、エアバルブ開度を調整し、揚水量を設定します。なお、計量器内の一番下のラインは放流側の堰の上端になっていますので、浄化槽内の水位がLWL時は計量器内の水は放流側の堰を越えるか越えないかの位置になります。



浄化槽内の水位（水位目安線の位置）と計量器内の水位（水位目安線の位置）とがほぼ一致するようにエアバルブを調整してください。

浄化槽出荷時には下表の設定にしていますが、浄化槽設置後には必ず確認、調整を行ってください。

	5人槽	7人槽	10人槽
バルブ開度 [%]	40	65	77.5

注意：

※ 本装置は、処理水をエアリフトによって排出します。エアリフトが作動しないと、槽内が満水となり、水質の悪い水がオーバーフローしてしまいますので、必ずエアリフトは作動させた状態にしてください。

(2) 逆洗排水移送装置の調整方法

ブロウのタイマを手動逆洗にします。逆洗排水移送装置の移送水量は逆洗排水移送管の先端部（流入バツフル内）で実測し、5人槽で7L/分、7人槽で10L/分、10人槽で14L/分になるようにエアバルブを調整してください。なお、エアバルブは3方バルブを使用しており、1つのバルブで逆洗排水移送装置用エアと逆洗用エアのバランスをとっていますので、開度目盛りの赤色部の範囲内で調整してください。

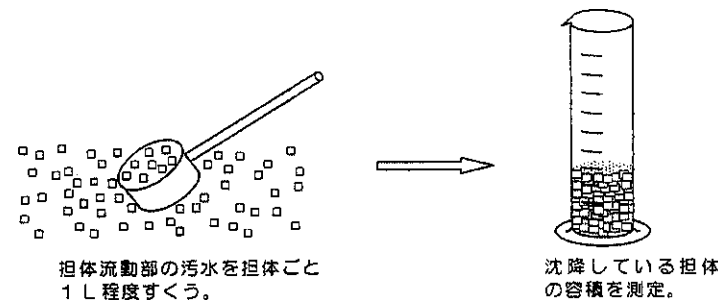
浄化槽出荷時には下表の設定にしていますが、浄化槽設置後には必ず確認、調整を行ってください。

	5人槽	7人槽	10人槽
移送水量[L/分]	7	10	14
バルブ開度 [%]	10	15	20

(3) 流動担体量の確認方法

担体流動部のぼっ気中に槽内の汚水を担体ごと1L程度すくい、沈降した担体の容積を測定してください。担体の容積がすくった量に対して25～35%あれば適正です。

水張り直後は担体が浮上し流動しない場合がありますが、汚水の流入が始まると1週間前後で流動し始めます。なお、浄化槽を使用中に担体が浮上した場合は、散気管及びブロウの点検を行ってください。



(4) 消毒剤の有無を確認して、消毒剤を袋から取り出して、所定の位置に正しくセットしてください。

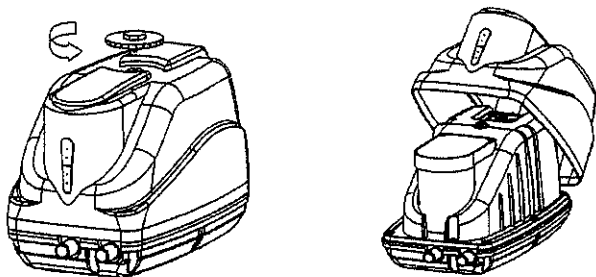
(5) ブロウの振動や騒音がないか、屋内での確認も合わせて行います。

(6)ブロウの操作方法

※10人槽用ブロウは操作方法が異なりますので、ブロウ付属の取扱説明書を参照してください。

●ブロウカバーの取り外し方

- ①ハウジングカバーの上部についているノブボルトを左下図のように回して外します。ノブボルトのネジ部に内部浸水防止用のOリングが付いています。脱落にご注意ください。
- ②ハウジングカバーを上へ引き上げて外します(右下図)外れにくいときはハウジングカバーを左右に揺らしながら上に引き上げると外れやすくなります。



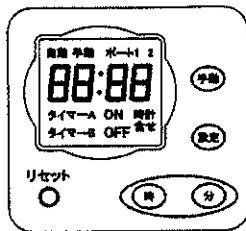
●タイマーユニットの説明

手動ボタン：自動運転を中止し、任意の方向（ポート1：逆洗ポート2：散気）への切り替えを行います。

設定ボタン：逆洗時間の設定や時刻合わせ等の設定モードを切り替えます。逆洗時間は1日最大3回まで設定できます。

時/分ボタン：逆洗時間の設定や時刻合わせを設定する時に押します。

リセットボタン：タイマーの設定をクリアします。このボタンを押した後は必ず新たな時間設定を行ってください。

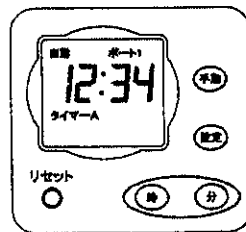


●タイマーユニットの設定確認

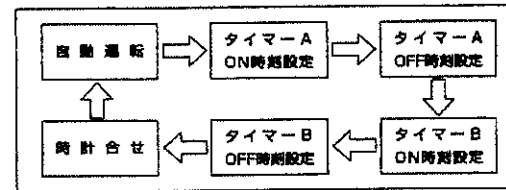
① 現在時刻の確認と設定

液晶表示が「自動」になっている状態で現在の時刻が表示されていることを確認してください(右図)。時刻が間違っている場合は次の方法で修正してください。

1. 設定ボタンを押して液晶画面右下部に「時計合せ」を表示させます。設定ボタンは1回押すごとに下図のように切り替わります。



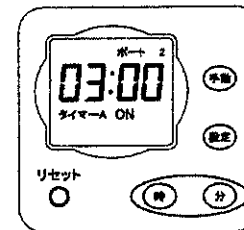
2. 時刻表示が点滅し「時計合せ」と表示されましたら「時」「分」ボタンを押して現在時刻を設定します。「時」ボタンを1回押すと1時間ずつ進みます。長押しすると早送りします。(24時間表示)「分」ボタンを1回押すと1分ずつ進みます。長押しすると早送りします。59の次は00に戻り、「時」の桁上げはしません。



② タイマーAの逆洗開始時刻の確認

このタイマーは1日に3回まで逆洗自動切替え運転することができます。タイマーAは1日1回以上切り替える場合最初に必ず設定してください。

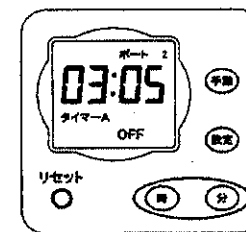
1. 「自動」の状態から設定ボタンを1回押すと右図のように「タイマーA ON」と表示され、逆洗開始の時刻が表示されます。
2. 設定時刻を設定していない、もしくは変更するときは「時」「分」ボタンを押して設定してください。操作は前述の現在時刻の設定と同じです。



③ タイマーAの逆洗終了時刻の確認

1. 前述②の状態から引き続き設定ボタンを1回押すと右図のように「タイマーA OFF」と表示され、逆洗終了の時刻が表示されます。
2. 設定時刻を変更させるときは「時」「分」ボタンを押して設定してください。操作は前述の現在時刻の設定と同じです。
3. 1日に1回だけ逆洗自動切替え運転する場合はこの後設定ボタンを4回押して「自動」を表示させてください。この時液晶画面には「自動」「タイマーA」と表示されます。

※正しく逆洗開始時刻と逆洗終了時刻の各設定がされていないと「自動」と表示されたとき「タイマーA」は表示されず自動切替えが行われません。「自動」運転にしたときに「タイマーA」が表示されない場合は設定を確認しなおしてください。

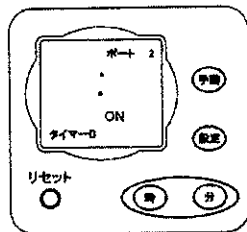


● 複数回逆洗への切り替えの設定

本機は1日に3回まで逆洗自動切替え運転をすることができます。2回目の設定は「タイマーB」、3回目の設定は補助タイマー「タイマーA B」として設定できます。

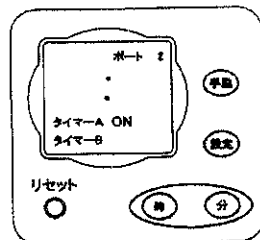
① 2回目の逆洗への切り替えの確認、設定（タイマーB設定）

- 「自動」の状態から設定ボタンを3回押すと右図のように「タイマーB ON」と表示されます。時 分 ボタンを押して逆洗開始時刻を設定してください。操作は前述の現在時刻の設定と同じです。
- もう一度設定ボタンを押すと「タイマーB OFF」と表示されます。時 分 ボタンを押して逆洗終了時刻を設定してください。操作は前述の現在時刻の設定と同じです。
- 1日に2回で終了する場合はもう一度設定ボタンを押して「自動」に切り替えてください。この時液晶画面には「自動」「タイマーA」「タイマーB」と表示されます。



② 3回目の逆洗時刻の設定（補助タイマーA Bの設定）

- 前述タイマーBを設定した後、「タイマーB OFF」設定状態で設定ボタンを3秒以上押すと右図のように「タイマーA タイマーB ON」と表示され、隠しタイマーA Bの開始時刻の設定を行います。時 分 ボタンを押して逆洗開始時刻を設定してください。操作は前述の現在時刻の設定と同じです。
- もう一度設定ボタンを押すと「タイマーA タイマーB OFF」と表示されます。時 分 ボタンを押して逆洗終了時刻を設定してください。操作は前述の現在時刻の設定と同じです。
- もう一度設定ボタンを押して「自動」に切り替えてください。設定終了です。3回目の設定は「自動」の時、液晶画面には表示されません。
※ 逆洗開始時刻と逆洗終了時刻の各設定がされていない、もしくは重複して設定している時は、3回の切り替えとも自動切替えは行われません。但し、重複されていない場合は逆洗運転を行います。



● リセットボタンについて

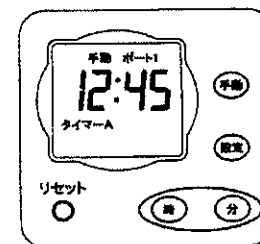
各タイマーの設定時刻を消去します。設定ボタンを押して消去したいタイマーの「ON」もしくは「OFF」の状態を選び、リセットボタンを押すと時刻表示が消え設定が無効になります。設定は無効になっていますが、リセットした「ON」もしくは「OFF」のもう片方は時刻のメモリーが残っています。誤作動防止のため「ON」の時刻をリセットしたら、「OFF」の時刻もリセットしてください。時計合わせモードの時、リセットボタンを3秒以上押すとす

べての時刻が消去され00:00で点滅します。再度、現在時刻から設定しなおしてください。

● 送気の確認

全ての設定が終わりましたら、正常に「散気」「逆洗」に切り替えができるか確認してください。本機は手動で送気の確認ができます。

- 「自動」の状態から手動ボタンを押すと「手動」「ポート1」が表示され（右図）ポンプの逆洗側ノズルから送気されます。槽内に正しく送気されていることを確認してください。
- もう一度手動ボタンを押すと「手動」「ポート2」と表示され、ポンプの散気側ノズルから送気されます。槽内に正しく送気されていることを確認してください。
- 手動ボタンは押すごとに「ポート1」＝逆洗、「ポート2」＝散気を繰り返します。
- 確認終了後は設定ボタンを1回押して「自動」に切り替え、自動運転モードにします。



※電源を入れますと自動的に数回にわたり連続して切り替えを行います。これは切り替え中に停電になったときなどを想定して、電源を切る直前の状態にするための処理で、故障ではございません。

※設定途中の状態で一定時間放置しますと、自動的に自動運転モードに切り替わりますのでご注意ください。（時計合わせとタイマー設定モードでは1分、手動逆洗モードでは10分）

● 確認の終了

各種の確認は終了です。ハウジングカバーを取り付けノブボルトをしっかりと締め付けてください。

● 出荷時の設定

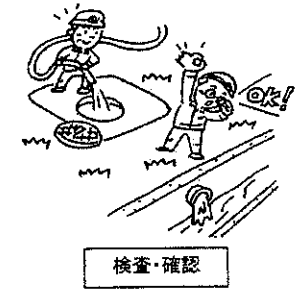
出荷時には以下のように現在時刻及び逆洗の設定をしていますが、使用開始前に必ず確認・設定をしてください。

項目	設定値
逆洗時刻	3:00、15:00
逆洗回数	1日2回
逆洗時間	20分

10. 完了検査と引き渡し

工事完成後に見落としがないか、下記のチェックリストで確認します。

項目	チェックポイント	適・否
1 槽上部の利用状況	恒久物を建てるなど、維持管理に支障はないか。	
2 雨水の流入	マンホールから雨水が槽内に流れ込まないか。	
3 流入弁	トイレの排水・雑排水が接続されているか。インバート弁になっているか。雨水の接続はないか。	
4 水の流れの状況	逆こう配や接続不良がないか。	
5 マンホールの開閉	モルタルで固定されてしまっていないか。枠の変形は無いか。	
6 かさ上げピットの状態	バルブに手が届くか。保守・点検・清掃作業ができるか。	
7 浴室のトラップ	浴室、流し等の排水管にトラップを付けてあるか。	
8 部品の欠落	部品(薬剤筒、消毒剤、ブロワ)はあるか。担体流動部及び生物濾過部に担体は充填されているか。	
9 部品の破損	部品(薬剤筒、消毒剤、ブロワ)の破損はないか。	
10 循環装置の確認	循環排出装置の排出調整バルブ開度が規定通りに設定されているか。	
11 逆洗排水移送装置の確認	逆洗排水調整バルブの開度が規定通りに設定されているか。	
12 ユニオンの緩み	ユニオンの締め付けは完全か。空気の漏れはないか。	
13 空気配管の横振れ	空気配管はきちんとセットされているか。	
14 送気管誤接続の確認	ブロワを運転すると、散気管からエアが吐出するか。	
15 ブロワのタイマ	タイマの逆洗運転時間、逆洗入時刻が正しく設定されているか。	
16 ブロワのアース	アースは取り付けられているか。(アース工事が必要な場合)	
17 消毒剤の充填	消毒剤が開封(使用開始が近い場合)されているか。	
18 放流弁の確認	雨水が逆流しない構造になっているか。	
19 基礎の記録	基礎の状況の記録(写真など)はあるか。	
20 工事完了届の手続き	工事完了届の手続きは済んでいるか。	
21 使用開始直後の点検	使用開始直前の保守・点検の手配はとれているか。	
22 保守・点検・清掃	法律による義務付けの説明は済んでいるか。	
23 定期検査	設置者に第7条、第11条検査の義務付けを説明してあるか。	
上記の通り確認したことを証します。		
年 月 日	担当浄化槽設備士氏名 (浄化槽設備士免状の交付番号:)	印



- 1) 確認と試運転が完了したら、設置者に引き渡してください。
- 2) 引き渡し時には、使用方法を必ず説明してください。
- 3) チェックリスト(p.22を参照してください)を浄化槽に添付されている取扱説明書、維持管理要領書と一緒に必ず設置者に手渡してください。
- 4) 維持管理業者が決まっている場合には、竣工検査の際に一緒に立ち会うように連絡して、必要な引き継ぎを行ってください。

11. 槽の外形寸法と仕様

型式	MCP-5型	MCP-7型	MCP-10型	
人槽(人)	5	7	10	
材質	メトン	メトン	FRP	
各部寸法(mm)	最大長さ	2,060	2,460	3,480
	最大幅	1,190	1,190	1,190
	全高	1,650	1,650	1,650
	流入管底	290	290	290
	流出管底	390	390	390
	流入・流出管径	φ100	φ100	φ100
送気管径	φ13	φ13	φ13	
ブロワ	80 L/分	80 L/分	100 L/分	